



青 於

1月号



なかよし共遊 (12/10)

毎年12月10日は「人権デー」、今年は12月4日から10日までが「人権週間」、12月は「人権月間」となっています。本校でも12月2日から20日までを「なかよし月間」として、自分や友だちのよさを認め合い、人権を尊重しようとする意識を高めるために、人権に関するさまざまなことを実施しています。その一環として、縦割り班のメンバーが仲良く活動できるように「なかよし共遊」を行いました。遊びの内容については、6年生が決めてくれました。



人権読み聞かせ (12/19)

今年初めて人権を題材にした本の読み聞かせを教師が行いました。

- 1年「ほくのまわりの大切なこと」
- 2年「ともだちってだれのこと？」
- 3年「ごめんねともだち」
- 4年「やさしさとおもいやり」
- 5年「2人のサンドウィッチ」
- 6年「ええところ」



なかよし集会 (12/19)

子どもたち全員が、素晴らしい「人権の目標」を書きました。その中で、2つの目標について話をしました。①『自分がされて、いやなことはしない』これは、12月の朝会で話した、「小森美登里さん」の子育てのテーマにもなっています。自分がされて、いやなことをするのではなく、自分がしてもらってうれしいことを、友だちにしてあげられるといいですね。②『いじめや仲間はずれにしない』これは、法律でも決まっていることです。いじめるのではなく、友達と協力したり、仲良くしたり、助け合って生活したりすることが大切ですね。



朝会の話(1/20)「塵劫記」

江戸時代、日本では数学が飛躍的に進歩しました。この日本独自の数学を「和算」といい、江戸時代に大流行しました。その背景には、貨幣経済の発達にあります。年貢の割合を計算したり、土木測量をしたりするために、数学の知識が必要になったからです。なかでも流行の火つけ役となったのが「塵劫記」です。吉田光由が執筆したこの数学書には、そろばんの使用法や測量計算法、土地の面積の求め方などが、分かりやすく説明されています。

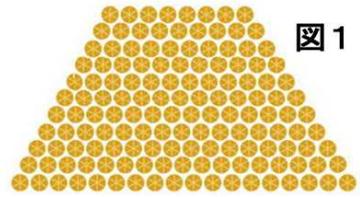


図1

- その数学書に書かれている内容について、いくつか紹介しました。
- 俵杉算（例. 米俵を図1のように積み上げる。一番下の段には18俵あり、一番上の段には8俵ある。全部で、米俵は何俵あるか。）
 - 旅人算（例. 1日12里の速さで歩く人が、江戸から京に向かった。その人が出発してから4日後に、別の人が1日13里の速さで、京から江戸に向かった。2人の旅人はどこで出会うか。）
 - 鶴亀算（例. 鶴と亀が併せて100頭いる。足の数の和が272本のとき、鶴と亀はそれぞれ何頭いるか。）

家庭教育学級 (12/12)

第5回家庭教育学級のテーマは、「親子で楽しくアイシングクッキー」です。アイシングとは、粉糖と卵白を混ぜて作ったクリームのことです。そのクリームを使って、クッキーの上にデザインをしたものをアイシングクッキーと言います。アイシングには油分が含まれていないため、空気に触れるとすぐに固まるので、持ち運びがとても便利です。



かるた大会 (1/7)

市武道体育館で、百人一首かるた大会が行われ、5年生6名が参加しました。予選は、3チームのリーグ戦で行われ、僅差で敗れたため、決勝トーナメントに進むことはできませんでしたが、子どもたちは、よく頑張りました。(優勝は、真岡東小) 今回で、かるた大会は終了になります。



避難訓練 (1/15)

もしも火災が起きたとき、素早く安全に避難できるようにするために避難訓練を行いました。避難した後、1年生から3年生は、火事の際に煙が充満して何も見えなくなってしまうことを、煙ハウスで体験しました。また、4年生から6年生は、3階音楽室から脱出袋を使って避難する体験をしました。

